

若者のライフスタイル・衣生活スタイルと自己概念との関連について

○白井佐代子* 中川早苗**

(*愛知大短大, ** 奈良女大)

目的 感性や個性が重視される現代、若者のライフスタイルや衣生活スタイルの多様化、個性化が進展している。本研究では、このような多様化、個性化を促す要因を自己概念の側面から明らかにするために、若者のライフスタイルや衣生活スタイル、自己概念について質問紙による調査を行い、相互の関連について検討を試みた。

方法 関西圏と関東圏に在住する満15歳から26歳までの若者(高校生、大学生、社会人)男女1,200名を対象に、集合調査法および配票留置法による質問紙調査を1997年1月に実施した。主な調査項目は生活態度、着装態度、好きな服装のイメージや自己概念などである。データの集計・分析には単純集計、クロス集計、因子分析、差の検定の手法を用いた。

結果および考察 自己概念については、若者が自分自身をどの程度高感度で個性的な人間であると思っているかといった側面を、高感度尺度およびユニーク性尺度を用いて測定し、感度が高くユニーク度が高いグループと感度が低くユニーク度が低いグループの2グループに分けた。次に生活態度、着装態度、好きな服装のイメージについて因子分析を行い、前述の2グループ別にそれぞれの因子別因子得点の平均値を算出し、差の検定を行った。その結果、生活態度では、リーダーシップ性、外向性、権威志向性、他者志向性などほとんどの因子に2つのグループ間で有意に差がみられた。着装態度ではおしゃれ性、自分らしさ因子に差がみられ、社会性や着心地因子では差がみられなかった。これらの結果から高感度でユニークな若者は、外向的でリーダーシップ性があり、自分のイメージや個性にあった服装を心がけているなど関連がみられることが明らかになった。